

居宅部会・通所部会・施設部会の連携

日時 平成24年1月17日
於: だんらん1階食堂
参加者 約75名

総括 グループワークの中でいい議題提案が出来て、みんなが前向きに成功事例を共有できたことがとても有意義だった。
震災についても考えるきっかけ、意識付けになった。

以下、各グループのメモから。

いい連携が出来たケース

- A 小規模でのケース
独居。アルコール依存、意識無く救急対応。退院後そのまま泊まりで柔軟に対応
高齢者世帯。虐待。地域と家族の協力で上手く対応できた
ネグレクト。包括に相談。孫の暴力。
緑内症から認知症へ。近所の見守りでサービス見守りも上手く行く
息子と二人暮らし。徘徊。地域のネットワークを作る。本人顔写真チラシ作成、配布
- B 誤嚥性肺炎で入院。吸引が必要に。デイ、ショートに依頼し対応時間を検討。在宅が継続できてとても感謝。
独居の対応。デイのお迎え時の体調不良を発見。救急対応。連絡先の確保が重要だった。
包括さんのケアマネ支援。ケアマネが対応に困っているケースに話を聞きに行く。それだけでヒートアップが収まることに。
- C デイ時間の延長対応。様子を報告もらえる
小規模にて。民生、包括などの協力を得られた。関係者が集まって話すことが重要だった。
独居。疾患あり。自転車で買い物。消防署の前で転倒。お金が無いのでタクシー呼ばず救急車で帰る。これがきっかけで、緊急時体勢を組
- D 同一法人の事業所は近いこともあり、連携がとりやすい
他の事業所との連携はスムーズに取れないこともある。利用者、事業所のニーズに対する想いに差があるのでは？
今後は 情報をすぐに事業所に伝える
些細なことでも現場からの情報はすぐ家族に伝え、確認。ファックスは有効
単独の居宅へもすぐ連絡、確認
連絡のやり取りをこまめにより居宅、事業所間の信頼関係が築ける
小規模多機能は家族へ直接に通じている。

- E 認知症で、内服管理をディで協力を得て行えた
独居。毎日誰かが訪問できる体勢。体調変化に、ヘルパー、遠い親族、ケアマネが連携できた。
支援2、訪問サービスを毎日希望。小規模で毎日訪問。
家族遠方。閉じこもりガチ、在宅難しく入所を考える。
- F 全盲で独居支援から介護に。日曜日、転倒したことをヘルパーが発見。すぐの連携で月曜日からショート利用が出来た。
普段から連携できる先を作っておくことがケアマネの仕事
- G 近所の人で、訪問で着たい時自宅を見につけてくれる人などを充分協力を求めたい
- H 普段より訪問看護、往診の方。小規模と医療機関が連携できて体調変化時にすぐに情報交換、指示を受けられる。
仕事を持つ息子と、昼間独居の認知徘徊の母。メールでやり取りし、状況を共有。

防災について

13:00 突然マグネチュード9.0相当の地震が突然やってきた。個人として事業所として、どんなことが出来るか？

- A 災害用援護老人台帳にたいして元気な方が声をかけたい。ただ、説明不足で進んでいる気がする。
- B 恐らく東海中央病院に殺到。
津波はない。
ケアマネは利用者さんのリストは出せるか？
何曜日は何処にいるのか把握しているか？パソコンや、電話、交通はNGだと見込まれる。
ディではリーダースタッフ全員が当日の利用者さんをおくほdけいるか？
アナログ的なもの。ラジオ、情報が必要と思われる。
飲み水。食べ物の確保も必要。
搬送も困難かもしれないので応急処置が出来るように。
業務車両にもガラスを割れるハンマーを用意。
ヘルメットの数を増やす。
認知症の方はその場の空気は読めて誘導にも対応できるケースがあったと聞いた。
- C 3日から1週間程度の食料確保。防寒。帰宅困難者への対応。
施設と通所利用者さんの食料、水を確保するようにした。
高齢者世帯、独居世帯の安否確認
訪問介護利用者さんはヘルパーが安全な場所に誘導
避難所の確認、把握
伝言ダイヤルの利用で安否確認

- D 備蓄品がどこにあるか分からない
備蓄品を置くスペースが施設内にはない。
行き当たりばったりになるのでは・
交通網のストップ、通信のストップが想定される。
緊急持ち出し袋の準備が必要
地域の避難マップを用意したい。
火災にも注意したい。
想像力をより働かせたい。
- E 食料のストックが大切
通信できないと職員への連絡も出来ない。
携帯メール、伝言ダイヤルの利用。使い方が分からないから1/月の練習が必要。
自転車を移動手段としたい。
マニュアルはない。マニュアルを考えたいが、実際は都度対応しか出来ない。
- F 施設内の家具の固定、配置を考えたい。
年二回。緊急連絡網を回す訓練をしている。
施設内に避難所マップを張って家族に啓発する。
そのときに要る職員で対応できるように外からの職員はこられないと想定を変える
自施設で避難生活ができる工夫をしたい。
夜間想定 of 訓練をする。
- G 水があふれ通行止め。予想できるんときは事前に家族に連絡し、ショートの利用などを検討。
家は潰れる。電気はつかない。電話使えない。
独居の人。目印をつけたいが訪問販売が怖い
たんすの固定対策をしておきたい。
地域の力が必要だから普段からの近所づきあいが必要。
高齢者はデイにいた方が安心。
日頃の訓練が大切。
- H 備蓄を考えたい
施設を避難場所にしたい。
手作りの防空頭巾を結いしている。
かんぱんは利用者さんは食べられない。
備蓄があっても取り出しにくいところにある。

ヘルメットの用意が必要。
倒壊の可能性のある家を誰が見に行くか
通信できないと連絡、支持が確認できない。
公衆電話は使えるらしい。でも何処にある？
吸引器、在宅酸素が使えない。バッテリー付のものが必要。
通所だと夜帰宅させられない。防寒具などが必要。